



中部の活性化に観光産業 として出来ること

千

字 万 感

株式会社JTB中部
代表取締役社長 松本 博

JTBの淵源は、外貨獲得を主眼とした外客誘致と日本経済への貢献を理念とし、明治45年に創立されたジャパン・ツーリスト・ビューローです。以来105年にわたり旅を基軸として、人々の交流を促し、お客様が感動に出会える場を創造することを事業のドメインと定めています。また、第二次世界大戦中には、杉原千畝氏が発給し続けた、命のビザを手にするユダヤ人の日本への輸送業務を担い、いかなる情勢下であっても、目の前の一人ひとりのお客様と向き合い、職務を全うする企業文化を培ってまいりました。

JTBグループは2006年にマーケット特性、競争環境の変化に素早い経営判断を行うため、地域分社化を行い、中部8県を事業エリアとした「JTB中部」を創業させました。現在、国内各地では地方創生に関する何らかの課題を抱えていますが、その答えは当該地域にしか存在せず、他の成功事例の模倣では通用しないと考えています。当社は各地に観光プロデューサーを配置し、その知見を活かすことにより、地域の魅力を発掘し、磨き上げ、課題の解決に繋げてまいります。更には、世界36か国、100都市、516個所の責任者は、従来の「日本発・世界着」から「世界発・世界着」へと、誘客・送客の両輪をミッションとして、世界を舞台にした「交流」を実現させようとしています。

5月には伊勢志摩サミットが開催され、各国からの関係者に、美しい景観、食の豊かさ、日本古来の文化に触れていただく絶好の機会となりました。「モノ」はWEBなどで世界中から購入できる時代になりましたが、実際に現地でしか体験できない「コト」はリピーターを生み出し、口コミによる更なる来訪者を呼び込みます。当社が昨年オープンした中部国際空港と名古屋大須商店街の情報発信拠点を最大限に活用し、訪日外国人誘客とともに、日本各地へ伊勢志摩はもとより、中部エリア、昇龍道の魅力を発信してまいります。

現在、日本旅行業協会(JATA)の中部支部長を務めておりますが、旅行会社の持つ最大の経営資源は「ヒト」であります。これからも起こり得るであろう様々な環境変化に柔軟に対応できる人材を育成し、世界に誇れる観光資源を発掘しながら、中部における「交流人口」の拡大に貢献していきたいと決意しております。